

第五十九回 帝國議會 衆議院

## 抵當證券法案外九件委員會議錄(速記)第八回

會議  
昭和六年三月三日(火曜日)午前十時三十五分開議  
出席委員左ノ如シ

司法參與官 井本 常作君  
司法書記官 森田 豊次郎君  
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ  
抵當證券法案(政府提出)

不動產登記法中改正法律案(政府提出)  
民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)  
書記官森田豊次郎君ガ新ニ政府委員ヲ任命セラレマシテ、出席セラレマシタ、顧シタイト思ヒマス、是ヨリ質問ノ通告順ニ依ッテ御紹介致シマス、並ニ司法

モ、名川君カラモ、此點ニ付テ御質問セテ御報告致シテ置キマス、——板谷順吉君  
其抵當證券ナルモノガ確實ノモノデアリマシテモ、登記面ニハ立派ニアッテガアツタノデアリマスガ、例ヘバ土地デ思フノデアリマス、先般來石崎君カラモ、海ノ底ニナツテ居ルト云フヤウナ場所モアリマス、又登記面ニ副ハナイヤウナ地形ノ土地モ澤山アルノデアリマスカラ、何ト云フテモ此抵當證券法ガ制定サレタ以上ハ、即チ抵當證券其モノ

○大久保政府委員 只今板谷サンノ御質問ニ對シマシテハ、サウ云フ機關ヲハ世間ノ取引ニ從ツテ漸次ニ發達シテ行クト云フ風ニ考ヘテ居リマス、實際ノ賣買トシテハ、御質問ノ如ク金融業者其他ノ人ガ更ニ取扱フト云フコトニナルダラウト思ヒマス、格付其他ニ付テ特別ノ機關ヲ拵ヘルト云フガ如キコトハ想像致シテ居リマセヌ

○板谷委員 ドウモサウ云フ御答辯デハ満足致シマセヌガ、先般來カラ御話スルヤウニ、地方ノ銀行ガ不動産ニ金ヲ貸シテ困ツテ居ル、之ヲ救濟スルト云フコトガ、第一ノ目的ニ出タヤウニ吾吾ハ想像シテ居ルガ、ソレデアルナラバ、今御話スルヤウニ別ニ何等不便ナ點モナク、詰リ勸業ナリ或ハ又農工ナリヘ持ツテ行ケバソレデ済ム話デアル、併ナガラ常識カラ判斷シテ見マシテモ、普通ノ銀行ガ、土地所有者ニ金ヲ貸シテ居ツテ、其證券ノ裏書ニ責任ガアルトスレバ、輾轉シテ他ノ個人其他ニ賣買サレルト云フ例ハ、私ハ殆ドナイト思フ、要スルニ一般ノ個人ニ廣ク之ヲ運用スルト云フコトニ付テハ、何ト云ツテモ第一土地ノ評價鑑定ト云フモノガ伴ツテ行カナケレバ、此運用ガ出來ナイドウモ之ニ付テノ御腹案ガナイト云フ

コトニ付テハ、私ハ何ト言ツテ宜イカ、  
ドウモ片輪ノ仕事ヂヤナイカト思フ、  
例ヘバ亞米利加ナドハ、勿論此抵當證  
券ノ性質ハ違ヒマスケレドモ、不動產  
ノ取引所ノ如キモノガアッテ、例ヘバ是  
ハ私設デアリマシテモ、公設デアリマ  
シテモ、斯ウ云フ機關ガアッテ、初テ其  
運用ガ出來ルヤウニ思フ、銀行本位デ  
アルナラバ、其必要ハナイデアリマセ  
ウ、併ナガラ之ニ付テノ御考慮ガナイト  
云フコトデハドウモ此運用ト云フモノ  
ハ私ハ十分ニ出來ヌト思フ、將來ハド  
ウ爲サル御考デアルカ、今御腹案ガナ  
クテモ、將來ハ之ニ伴ッテ此施設ヲ爲サ  
ル御考デアリマスカ

ノデアリマス、十五條ニ「抵當證券ノ讓渡ハ裏書ニ依リテ之ヲ爲ス」ト云フコトニナツテ居リマスガ、此問題ニ付キマシテモ、屢々質問ハ繰返サレテ居ルノデアリマスルガ、即チ裏書人ガ輾轉シタ場合ニ於テハ、誰ガ持ツテ居ルカ、最後ノ所持人ト云フモノガ土地所有者ニ分ラスト云フコトハ非常ニ不便デアルトスウ云フ質問ガアッタノデアリマスガ、私モ其點ニ付テハ同感デアリマス、ソレカラ又此所得稅ノ關係ガドウナルモノデアルカト云フコトニ付テハ疑義ガアルノデアリマスガ、例へバ第一ノ債權者ガ抵當權ヲ設定シタ場合ニ於テ、ソレヲ賣ル、ソレガ輾轉致シマシテ最後ノ所持人ト云フモノガ表面ニ現ハレテ居ラヌノデアリマス、然ルニ此所得稅ヲ徵收サレル場合ニ於テハ、第一ニ抵當ヲ登記シタ者ハ、此土地ノ解決ノ附カザル限りハ、ヤハリ稅金ヲ取ラレルト云フヤウナ形ニナツテ居リマスガ、此點ニ付テハドウ云フ御見解ヲ持ツテ居ラレマスカ、先達テ長島政府委員ハ、抵當證券ガ輾轉シタ場合ニ於テハ、段々調べテ見レバ分ルカラシテ、其者ニ付テ稅金ヲ徵收スルト云フヤウナコトヲ言ツテ居ラレタケレドモ、是デハ

私ハ不徹底デアルト思<sup>ツ</sup>テ居タ、登記所ガ左様ナ仕事ナドヲ出來得ベキモノデナイ、デアルカラシテ或ハ抵當證券ノ流通ノ上ニ於テ多少ノ阻害ガアルト致シマシテモ、是ハ獨逸ノ例ヲ見マシテモ、抵當證券ガ輾轉シタ場合ニ於テハ、登記ヲスルト云フヤウナコトモアリマスルガ、兎ニ角今御話スルヤウニ、抵當證券ノ讓渡ハ、裏書ニ依<sup>ツ</sup>テ之ヲ爲スト同時ニ、裏書ヲ爲シタル時ハ登記ヲスルト云フコトガ、債務者ノ立場カラ考ヘマシテモ、或ハ此證券ガ輾轉スル場合ニ於キマシテモ、極テ安全デアル、斯ウ吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、政府ノ所見ハドウデアリマスカ、之ヲ一ツ伺ヒタイト思ヒマス

務署ノ方デ、登記所ニ就テ調ベマスト  
云フト、抵當證券ヲ發行シテ居リマス  
レバ、其抵當證券ガ發行セラレタコト  
ガ記載セラレテ居ル、ソレニ依ッテ稅務  
署ノ方デハ抵當證券ノ所持人ガ他ニア  
ルト云フコトハ分リマス、サウスルト  
今度ハ債務者ノ方カラト云フコトヲ調査  
レガ誰ノ手ニアルカト云フコトヲ調査  
スルコトニナルダラウト思ヒマス、所  
デ其債務者ハ、利子ヲ支拂ヒマス時分  
ニ、抵當證券所持人ガヤッテ來マスカラ  
シテ、何人デアルカト云フコトハソレ  
デ分ルノデアリマス、尙ホ抵當證券ニ  
モ、無記名裏書ヲ禁ジテ居リマスカラ  
シテ、誰ノ手カラ誰ノ手ヘ輾轉シテ、  
今誰ガ所持シテ居ルト云フコトガ分  
コトハナイ、斯ウ云フヤウニナルノデ  
アリマスカラシテ、稅ニ付キマシテハ  
バ、稅務署ノ調ト云フモノガ出來ナイ  
コトハナイ、斯ウ云フヤウニナルノデ  
アリマスカラシテ、稅ニ付キマシテハ  
バ、稅務署ノ調ト云フモノガ出來ナイ  
コトハナイ、斯ウ云フヤウニナルノデ  
アリマスカラシテ、稅ニ付キマシテハ  
バ、稅務署ノ調ト云フモノガ出來ナイ  
コトハナイ、手掛リハ十分アル、其他  
ノ租稅ニ付キマシテモ、隨分サウ云フ  
ケレドモ、スッカリ手掛リガナイト云フ  
コトハナイ、手掛リハ十分アル、其他  
ルノデス、ソレハ今日ノ經濟關係ノ複  
雜シタ世ノ中デハ已ムヲ得ヌコトデア  
リマス、併シ抵當證券ヲ發行致シマシ  
テモ、今ノヤウナ注意シテ居リマス

カラシテ、調査ノ上ニ絶對ニ出來ナイ  
モノデアルト云フヤウナコトハ言ヘナ  
レバ、其抵當證券ガ發行セラレタコト  
ガ記載セラレテ居ル、ソレニ依ッテ稅務  
署ノ方デハ抵當證券ノ所持人ガ他ニア  
ルト云フコトハ分リマス、サウスルト  
御心配ハナイト考ヘテ居リマス  
スカラ只今ノ抵當證券ガ輾轉シテ居ル  
ト、稅ノ方ハ拔ケテ行クト云フヤウナ  
スルコトハ出來マセヌ、モット明快ニ、  
○板谷委員 ドウモ分リマセヌガ、抵  
當證券ガ發行サレタカラト云ツテ、必ズ  
シモソレハ他ニ輾轉スルト云フ譯ノモ  
ノデモナインデアリマス、發行スレバ  
他ニ輾轉スルコトガ分ルト仰シヤルケ  
レドモ、抵當證券ガ出タカラト云ツテ、  
其人ガ直グ他ニ廻ス筋合ノモノデハナ  
イ、今承ッテ見マスルト、稅務署ハ其行  
先ヲ調ベレバ分ル、ソレハ長イ時日ヲ  
掛ケタラ分ルデアリマセウ、併ナガラ  
租稅ノ徵收ハ最モ確實ヲ期サナケレバ  
ナラヌ、又最モ公平ニ實際其金ヲ貸シ  
タ者カラ徵收スルト云フコトガ當然デ  
アル、從來ノ例カラ申シマシテモ、例  
色々調ヲ致シマスカラ、多少以前ヨリ  
ハ困難デアルト云フコトハ言ヘマセウ  
ケレドモ、スッカリ手掛リガナイト云フ  
コトハナイ、手掛リハ十分アル、其他  
ノ租稅ニ付キマシテモ、隨分サウ云フ  
風ニ調査ニハ色々困難ナコトハアリ得  
ルノデス、ソレハ今日ノ經濟關係ノ複  
雜シタ世ノ中デハ已ムヲ得ヌコトデア  
リマス、併シ抵當證券ヲ發行致シマシ  
テモ、今ノヤウナ注意シテ居リマス

カラシテ、調査ノ上ニ絶對ニ出來ナイ  
モノデアルト云フヤウナコトハ言ヘナ  
レバ、其抵當證券ガ發行セラレタコト  
ガ記載セラレテ居ル、ソレニ依ッテ稅務  
署ノ方デハ抵當證券ノ所持人ガ他ニア  
ルト云フコトハ分リマス、サウスルト  
御心配ハナイト考ヘテ居リマス  
スカラ只今ノ抵當證券ガ輾轉シテ居ル  
ト、稅ノ方ハ拔ケテ行クト云フヤウナ  
スルコトハ出來マセヌ、モット明快ニ、  
○小川政府委員 モウ話ハ同ジコトヲ  
繰返スバカリデアリマス、一體經濟關  
係ノ複雜シテ居リマス所デハ、稅ノ徵  
收ハ何ニ付ケテモ皆困難ナモノデアリ  
マス、此抵當權ノ設定ガアレバ、大變  
提ヘ所ガ宜イト云フコトニナル、一體  
抵當權ヲ設定シテ居ナイ債權デアッテ  
モ、皆調ベナケレバナラヌモノデアル、  
所ガ總テサウ調ベラレナイ、是ハ徵  
稅ノ上カラ言ヘバ、多少理想ヲ完全ニ  
達スルコトガ出來ナイカモ知レマセ  
ヌ、今日デモ稅ヲ徵收スルニ當ッテ、其  
調査ハ中々進ンデハ居リマスケレド  
モ、絕對的ニ百カラ百マデ取ラレス所  
ガ、今日ニ於テ甚ダ憂トスル所デアリ  
モ、此證券ガ誰ニ行ッテ居ルト云フコト  
ハ唯輾轉シタト云フコトヲ記入スレバ  
ノ關係ガアリマスガ、第一ノ抵當債權  
者ガ登錄稅ヲ納メテ居リマスカラ、後  
ハ唯輾轉シタト云フコトヲ記入スレバ  
宜イ、記入ダケノ程度デ登錄ヲ致シマ  
シタナラバ、第一債務者ニ於キマシテ  
モ、此證券ガ誰ニ行ッテ居ルト云フコト  
モ明デアリ、更ニ又今申上ゲタ稅ノ徵  
收ノ上ニ於キマシテモ、極メテ安全デ  
アッテ確實デアルト思フ、成ル程手形ノ  
如ク輾轉ヲ盛ンナラシム點ニ於テ、  
多少ノ遺憾ノ點モアリマスケレドモ、  
抵當證券ハ詰リ抵當附デアルカラシ  
テ、サウ手形ノヤウニ信用一方デ、取  
引サルベキ筋合ノモノデナイカラ、多

出来ナイ、非常ニ私ハ茲ニ支障ガ來ル  
コト、思フノデアリマス、今ノ御答辯  
スカラ只今ノ抵當證券ガ輾轉シテ居ル  
ト、稅ノ方ハ拔ケテ行クト云フヤウナ  
スルコトハ出來マセヌ、モット明快ニ、  
○承リタイ  
ドウ云フ方法デ確實ヲ期スルト云フ話  
スルコトハ出來マセヌ、モット明快ニ、  
○小川政府委員 モウ話ハ同ジコトヲ  
繰返スバカリデアリマス、一體經濟關  
係ノ複雜シテ居リマス所デハ、稅ノ徵  
收ハ何ニ付ケテモ皆困難ナモノデアリ  
マス、此抵當權ノ設定ガアレバ、大變  
提ヘ所ガ宜イト云フコトニナル、一體  
抵當權ヲ設定シテ居ナイ債權デアッテ  
モ、皆調ベナケレバナラヌモノデアル、  
所ガ總テサウ調ベラレナイ、是ハ徵  
稅ノ上カラ言ヘバ、多少理想ヲ完全ニ  
達スルコトガ出來ナイカモ知レマセ  
ヌ、今日デモ稅ヲ徵收スルニ當ッテ、其  
調査ハ中々進ンデハ居リマスケレド  
モ、絕對的ニ百カラ百マデ取ラレス所  
ガ、今日ニ於テ甚ダ憂トスル所デアリ  
モ、此證券ガ誰ニ行ッテ居ルト云フコト  
ハ唯輾轉シタト云フコトヲ記入スレバ  
宜イ、記入ダケノ程度デ登錄ヲ致シマ  
シタナラバ、第一債務者ニ於キマシテ  
モ、此證券ガ誰ニ行ッテ居ルト云フコト  
モ明デアリ、更ニ又今申上ゲタ稅ノ徵  
收ノ上ニ於キマシテモ、極メテ安全デ  
アッテ確實デアルト思フ、成ル程手形ノ  
如ク輾轉ヲ盛ンナラシム點ニ於テ、  
多少ノ遺憾ノ點モアリマスケレドモ、  
抵當證券ハ詰リ抵當附デアルカラシ  
テ、サウ手形ノヤウニ信用一方デ、取  
引サルベキ筋合ノモノデナイカラ、多

少ノ手數ハ掛ルトシテモ、確實ナ途ガアルトスレバ、ソレヲ御取リニナルノガ私ハ當然デアルト思フ、此點ニ付テモウ一遍伺ヒタイ

○小川政府委員 其事ハ度々前ニモ繰返サレテ居ルト思ヒマス、抵當證券ハ、

一方ニ流通證券デアル、其性質ヲモ失ハシメナイヤウニスルコトヲ考ヘナケレバナラヌ、唯徵稅ノ便利ト云フコトダケデ、ソレノ理想ヲ達スルノミニ是レ急デアルト云フコトハ、少シ行過ギルコトニナルノデアリマス、流通證券ト云方面カラ考ヘテ、斯ウ云フ程度ノ所ガ適當デアルト考ヘタノデアリマス、單ニ流通證券ト云フ方面カラ云ヘバ、實ハ白地裏書ヲ禁ズル必要ガナイカモ知レマセヌガ、ソレデモ白地裏書ヲ禁ジテ居ルノデアリマス、大分其點ニモ制限ヲ加ヘテ居リマス、ダカラ物ニハ程度ガアリマス、斯ウ云フモノデ、私ハ相當デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、板谷サンニ申上ゲマスガ、稅務署ノ方カラ云ヒマスト、何トカシテ總テ稅ヲ取ルヤウニ考ヘレバ宜イヤウナセヌ、殊ニ今日ノヤウニ、債權ノ移轉ガ簡便ニ出來ルコトヲ是レ願フテ居ル世ノ中デアリマスカラ、サウ云フコトモ考ヘナケレバナリマセヌ、他ノ債權

デアッテモ、稅ノ方カラ云ヘバ何カ捉ヘ所デモ殘シテ置ケバ宜イヤウナモノデ

ガアリマスガ、サウハ參リマセヌカラ、マスカラ是レ以上申上ゲマセヌ

其點ハ一方面ノミデ、決定ノ出來ルモノデナイト云フコトヲ御諒承願ヒタイ

ノデナイト云フコトヲ御諒承願ヒタイ

ト思ヒマス

○板谷委員 ソレハ勿論サウデアリマス、アナタノ仰シヤル通り、一方面ノミヲ見ルト云フコトデハイカヌデア

リマセウケレドモ、私ハ是ハハッキリシナイト、之ニ依ッテ迷惑スル者ガ出來ル

カラ申上ゲタノデアル、例ヘバ其證券ガ輾轉シタ場合ニ於テ、行先ガ分ラヌ、若

第一ノ債權者ハ登錄シテアルカラ、若

シ分ラヌ場合ニ於テ、其登記簿ニ依

テ、總テ全國ノ所得稅ヲ調ベテ課ケラ

レルノデアルカラ、分ラヌ場合ニ於テ

ハ第一ノ債權者ハ非常ニ迷惑ヲシナケレバナラヌ、之ニハ何處ニ賣ッタト云フ

モ次第二增加ヲ致シテ居リマスカラ、モ次第二增加ヲ致シテ居リマスカラ、

トシテ稅務署ハ調ベテ居ルノデ、其處ニ迷惑スル者ガ出來ルカラ、何等カ適易ニ出來ルコトデナイ、登記簿ヲ主體

トシテ稅務署ハ調ベテ居ルノデ、其處ニ迷惑スル者ガ出來ルカラ、何等カ適

易ニ於テ遺憾デハアルケレドモ、今御話ノヤウナ手形ト證券トハ性質ガ違フ

トシテ稅務署ハ調ベテ居ルノデ、其處ニ迷惑スル者ガ出來ルカラ、何等カ適

易ニ出來ルコトヲ云フコトニ付テハ、

アルト云フコトモ考ヘナケレバナリマス、板谷サンニ申上ゲマスガ、稅務署ノ方カラ云ヒマスト、何トカシテ總テ稅ヲ取ルヤウニ考ヘレバ宜イヤウナセヌ、殊ニ今日ノヤウニ、債權ノ移轉ガ簡便ニ出來ルコトヲ是レ願フテ居ル世ノ中デアリマスカラ、サウ云フコトモ考ヘナケレバナリマセヌ、他ノ債權

マシテ、登記ヲシテ置イタ方ガ、手數モ簡單ニ濟ムシ、尙ホ證券ノ取引ガ確

テ、寧ロ板谷君ノ御尋ね方ガ適當デ

記ヲスルト云フ方面、此兩方カラ考ヘ

困ルト云フ點ガ私共トシテハ一寸分リ兼ネル、其點ヲモウ一應説明願ヒマス

○森田政府委員 只今ノ登記ノ點デア

リマスガ、抵當證券ノ制度ヲ拵ヘマ

シテ、抵當權ノ輾轉ヲ簡易スルト云フ

ノハ、登記ノ手續ヲスルコトナクシテ

裏書ニ依ツテ之ヲ移轉スルコトガ出來ル、一々譲渡人ト譲受人トガ登記所ニ

出マシテ、移轉登記ヲスル煩雜ヲ除イ

テ、抵當權ノ融通ヲ圖ルコトガ目的ニ

ナツテ居ルノデアリマス、サウシテ抵當

證券ノ裏書ヲ受ケマシタ時ニハ、ソレ

ハ權利ノ移轉ノ登記ヲ受ケタモノト同

ジ位置ニ置カレルノデアリマス、サウ

シテアリマスカラ抵當證券ヲ發行シテ

事者ニ強ユルコトニナルノデアリマス

ソレデ登記ガ要ラナイデ、裏書ニ依ツテ

求スルト云フコトハ、無用ナ手續ヲ當

キナガラ、而モ其移轉ニ付テ登記ヲ

拵ヘマシタ眼目ニナツテ居ルノデアリ

マス、若シ登記モセナケレバナラナイ、ト

證券ノ裏書モセナケレバナラナイ、ト

云フコトニ致シマスレバ、現行法通り  
デ略、其點ニ付テハ間ニ合フノデアリマ  
ス、債權譲渡ノ手續ヲ致シマシテ、當  
事者雙方ガ登記所ニ出マシテ、サウシ  
テ登記ヲ受ケレバ、ソレデ間ニ合フノ  
デアリマス、併シ其手續ガ簡単ニ出來  
ルト仰シャイマスガ、中々當事者雙方  
ガ登記所ニ出マシテ、サウシテ移轉登  
記ヲ受ケルト云フコトハ相當手數ノ掛  
カルコトデアリマス、其手續ヲ廢メル  
ガ爲メノ制度デアリマスカラ、此抵當  
證券ノ制度ヲ認メマシタ上ニ、尙ホ登  
記ノ制度ヲ認メルト云フコトハ、是ハ  
無用ナ手數デアルト思ツテ、ソレヲ廢メ  
タノデアリマス

ナイト云フコトニ於テ、非常ナ不便ヲ  
感ズルノデアリマス、サウ云フヤウナ  
工合デ、又第三者カラシテモ抵當權ノ  
設定者、又ハ抵當不動產ノ取得者、サ  
ウ云フ者モ早ク抵當債務ヲ拂<sup>ツ</sup>テ、無疵  
ナモノニシテ、折角取<sup>ツ</sup>タ不動產ヲ自  
權者ガ誰デアルカト云フコトガ分ラナ  
イ爲ニ、其目的ヲ達スルコトガ出來ヌ  
ト云フヤウナ場合ガ出テ來ルノデアリ  
マス、屢々政府委員ハズット前ニ遡<sup>ツ</sup>テ  
ドモ、分ラヌ場合ガ中々多イノデアリマ  
ス、譬へテ申シマスレバ、債權者ノ  
方デ態ト隱サウト思ヘバドウスルコト  
モ出來ナイノデアリマス、又隱ス場合  
モアルノデアリマス、債權者ニ依<sup>ツ</sup>テ  
ナ考ヨリ致シマシテ、誰ガ債權者デア  
ハ、其土地ヲ是非共取ラウト云フヤウ  
場合モアルノデアリマス、又實際ニ於  
テソレガ輾轉シテ、東京ノ一ツノ町ノ  
ルカト云フコトガ分ラナイヤウニスル  
者ガ、隣々ニ移轉スレバ宜シウゴザイ  
マスガ、或ハ他府縣ノ者ニ譲リ、北海  
道ニ行キ、九州ニ行クト云フヤウナコ  
トモアルノデアリマスカラ、何人ガ抵  
當權者アルカト云フコトガ分ラズシ  
テ、辨濟モ出來ヌト云フヤウナ不便モ  
アルノデアリマス、又期限ガ來レバ、

三月ノ中ニ之ヲ競賣ニスルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスカラシテ、借換ヲスルト云フコトモ債權者トシテハ必要ナノデアリマス、其場合ニ於テ毛亦前ノ抵當權ヲ持ッテ居ル者ニ引續イテ貸シテ吳レナイカ、オ前サンノ方ニ借換ヲシテ吳レナイカト云フコトヲ交渉スルノニモ、債務者トシテハ最モ便宜ナ場合、新シク他ノ者ニ借リルト云フコトニナルト、其土地ヲ調査シテ、價格ナドヲ調べマスノニ、筆數ノ多イ不便ナ土地デアッタナラバ、其調査ニ半年位掛ル、農工銀行ヤ勸業銀行ナドカラ借リテモ、半年位ハ遅レル、サウ云フ次第デアリマスカラ、債權者ガ常ニ債權者ノ方ニ分ツテ居ツテ、サウ云フ交渉ヲシ其他總テノコトヲスル場合ニ於テ分ツテ居ルコトガ必要デアル、故ニ登記ヲスルコトガ最モ便宜デアルト思フノデアリマス、登記ハ非常ニ面倒ダト卑ハレルケレドモ、今日債權者ガ態、登記所へ行クト云フヤウナコトハ少イ、委任狀一枚持タシテヤレバ宜イノデ、銀行ヤ會社デアレバ其使用人ガ何時毛登記所へ行ツテヤルノデアリマシテ、一重役ナドガ行ツテヤルト云フヤウナコトハナイ、行キツケテ居ル使用人ナドノ方ガ、手續モ能ク知ツテ居ルカラ、登記料ヲ安ク交渉スルノニモ都合ガ好イノデアリマスカラ、其場合ノ不便ハ

○森田政府委員 債權者ガ不明ニナツテ、債務者其他ガ困ルト云フコトデアリマスガ、成程抵當證券ハ裏書ニ依ツテ移轉致シマスト、一時債權者ガ不明ニナルコトガアル譯デアリマスガ、此抵當證券ハ、提示證券ト云フコトニ致シマシテ、債權者ガ利息ナリ元本ナリノ請求ヲスル場合ニハ、證券ヲ提示シナケレバナラヌ、提示セナイト債務者ハ支拂期ガ來マシテモ遲滯ニ陷ラナイスウ云フヤウナコトデ、商法ノ規定ヲ準用シテアル次第アリマス、ソレデアリマスカラ、債權者ガ利息ノ支拂時期ガ参リマストカ、或ハ元本ノ返済期ガ参リマシタ場合ニ、債權者ハ其證券ヲ持ツテ債務者ノ所ヘ参リマスカ、或ハ利息トカ元本ノ支拂場所ガ定ツテ居ルナラバ、其場所ヘ参ルノデアリマスカラ、債務者ノ方デ債權者ガ誰カ分ラナイデ不便ダト云フ問題ハ、大體ニ於テナカラウト考ヘマス、ソレカラ登記ハ左程手數ヲ掛ケナイデ出來ルト云フ御話デアリマスルガ、是ハ程度問題デアリマシテ、成程登記ハ簡単ニ出來マセウ、併シソレデモヤハリ登記セズニ移轉ガ出來ルト云フ方ガ、ヨリ以上ニ便利デアラウト考ヘルノデアリマス



出来ルノデアリマスカラ、先づ此抵當證券ノ所持人ニ元本又ハ利息ノ支拂ノアツタ時ニハ、ソレノ證券ニ之ヲ記名捺印スル義務ヲ負ハシテ居ルダケデ十分デアルトシテ此規定ガ出來タノデアリマス、是ハ度々同ジコトヲ繰返スコトニナリマシテ濟ミマセヌガ、サウ云フ趣旨デ出來テ居リマシテ、此外ニハ最モ宜イ方法ト云フモノハ考ヘラレナカッタノデアリマス

○名川委員 重ネテ御伺致シマスガ、サウ致シマスト利息ヲ年々拂ッテ居リ

ナガラ、債權者ガ證券ノ方へ書イテ置キマスト云フコトヲ言ウテ、其實書イ

テ置カヌ、ソレカラ債務者ノ方ハ利息ノ受取書ヲ持テ居ルト云フ時ニ、其債

權者ノ方ニ於テ利息ガ二年以上滯テ居ルト云フノデ、期限ガ到來シタモノ

トシテ、元本全部ノ請求並ニ競賣ト云フヤウナコトヲシテ來タ時ニハ、債務者ハソレニ對シテ一抗辯方法ガ何カラ

○森田政府委員 勿論元本ダトカ利息ヲ受取リマシタ其事實ヲ知テ、證券ヲ譯デアリマス、其後ニ其債權者ニ、或

ハ偽造ダトカ、變造ダトカ、文書ノ毀棄ト云フヤウナコトヲ云フテ、刑事ノ告

訴ヲシタ所ガ、結局債務者ニ於テハ、スウ云フ不便ガアッテモ仕様ガナ

テ、非常ナ不利益ノ立場ニ就クト云フソレニ依テ抵當權ノ實行ヲセラレテ、又

不動產ヲ失フトカ、期限ノ利益ヲ失フ

方法ヲ排斥セラル、ヤウニ思フ、一體ソレガ根本的ニ間違テ居ルト思フ、斯

前ノ抵當權設定者、ソレカラ債務者等ガ寄リマスト、登記ノ途ガアリマス、

デアリマス、ソレハ證券ノ所持人ト、

致シマスカラ、是ハ登記ノ途ハアルノ

アリマシタ時ハ、勿論債權金額ガ減少

ハーツノソレニ付テ故障ガアルノデアリマスルカ、ドウデアリマスルカ

モ保護セラレルコトデアラウト思フノ

登記ヲサスト云フコトニシテ置イタラ

カト思ヒマス、結局一旦自分で書イテ置

イテト言ハレルノデアリマスガ、ヤハ

リ其證書ハ債權者ガ持テ居ルノデア

リマスガ故ニ、ソレヲ又抹消致シ、自

ヤウナコトヲ致シマスコトハ、是ハド

ヤウナコトヲ抹殺シテ、サウシテ人ヲ騙ル

フコトニナレバ、其點ハ讓受人ノ方デ

注意ヲスルコトニナリマセウシ、又サ

ウ云フヤウナ曖昧ナ證券ハ、全然普通

ノ者ハ讓受ケナイヤウナコトニナラウ

トカ、又ハ債務者ガソレニ依テ債務

ニ立ツノデアリマスケレドモ、ソレハ

ウナコトデ、サウ云フ惡イ事ヲスル債

權者ニ油斷ヲシタ結果ニ遇ギナイグラ

ウト思フノデアリマシテ、抵當證券ノ

印スルコトヲ見届ケテ拂ヘバ、サウ云

辨濟スル際ニ、其點ヲ注意シテ記名捺

印スルコトヲ見届ケテ拂ヘバ、サウ云

フヤウナ不利益ハ蒙ラナイデアラウト

考ヘテ居リマス

○名川委員 今政府委員ノ御答デアリ

マスト、記名捺印スルノヲ見届ケテ置

カト思ヒマス、結局一旦自分で書イテ置

イテト言ハレルノデアリマスガ、ヤハ

リ其證書ハ債權者ガ持テ居ルノデア

リマスガ故ニ、ソレヲ又抹消致シ、自

ヤウナコトヲ致シマスコトハ、是ハド

ヤウナコトヲ抹殺シテ、サウシテ人ヲ騙ル

フコトニナレバ、其點ハ讓受人ノ方デ

注意ヲスルコトニナリマセウシ、又サ

ウ云フヤウナ曖昧ナ證券ハ、全然普通

ノ者ハ讓受ケナイヤウナコトニナラウ

トカ、又ハ債務者ガソレニ依テ債務

ニ立ツノデアリマスケレドモ、ソレハ

ウナコトデ、サウ云フ惡イ事ヲスル債

權者ニ油斷ヲシタ結果ニ遇ギナイグラ

ウト思フノデアリマシテ、抵當證券ノ

印スルコトヲ見届ケテ拂ヘバ、サウ云

フヤウナ不利益ハ蒙ラナイデアラウト

考ヘテ居リマス

○森田政府委員 結局サウ云フ場合ヲ

ノ起キヌヤウナ法律ヲ持ヘルコトガ、

ハレテ居リマシテ、不動產登記法ノ五

十六條デ變更登記ヲ致サナケレバ 證券

ノ記載ハ變ヘラレナイ、サウシテ變更

ノ登記ガ出マシテ、變更ノ登記ヲ致シ

マスルト其際ニ、是ハ登記ノ手續ノコ

トニナリマスガ、證券ヲ提出シテ、ソ

レヲ登記所デ書キマシテ、變更シマシ

テ、所持人ニ返スト云フ手續ニナッテ

居リマスカラ、其點ハ若シ關係者ガサ

ウ云フ手續ニ運ビタイト云フコトナラ

バ、登記ノ途ハアルノデアリマス

○名川委員 登記ノ途ガアルト云フコ

トハ分ツテ居リマスカラ、サウ云フコ

トヲ聽イタノデハアリマセヌ、元本ノ

ト一部ノ辨濟ガアツタ時ニハ、必ズ之ヲ登

記スルコト、抵當證券ノ所持人ハ、登

記ノ義務ガアルト云フコトニシタラド

ウカ、ソレヲスルニ不便ガアルカドウ

カト云フコトヲ聽クノデス、今森田サ

ンガ御説明下スツタコトハ、登記ガ出來

ル手續ガアルト云フコトデアツテ、此條

文カラ見ルト、元本ノ一部ヲ辨濟シタ

ナラバ、一萬圓借金シタ者ガ五千圓辨

濟シタストレバ、其五千圓ノ變更登記

ヲ必ズシナケレバナラスト云フ義務ハ

見コマス、二十五條ニ依ツテ、其旨ヲ抵

抵當證券ノ所持人ニアリマセヌヤウニ

見コマス、二十條ニ依ツテ、其旨ヲ抵

當證券ニ書イテ置ケバ、ソレデ宜ササ

ウニ見エマスカラ……ソレヲサウデナ

ク、必ズサウ云フ時ニハ登記スルコト

ニ抵當證券所持人ニ義務ヲ負ハス、辨

濟者ガ登記シテ吳レト請求シタ時ニハ

所持人ニ於テ爲スベキ義務ガアルコト

ニシタラドウカ、此條文ニ於テハ其義

務ガ有ルノカ無イノカト云フコトヲ聽

クノデス

○森田政府委員 此二十五條ノ規定ハ、

元本ノ一部又ハ利息ノ支拂ヲ受ケタ

トキニ、證券ニソレヲ書ク手續ヲ規定シ

テアリマシテ、證券ノ所持人ハ、斯様ナ

手續ヲシナケレバナラヌト云フコトノ

規定デアリマシテ、是デ債權ノ辨濟ヲ

受ケタ者ノ義務ガ盡キルト云フ趣旨デ

ハナイヤウニヘ考テ居リマス、勿論辨

濟金ヲ受取ツタノデアリマスカラ、登記

ノ請求權ハ債務者ノ方ニアラウト考ヘ

テ居リマス、此二十五條ハ只證券面ノ

カト、利息ノ變更ノ場合ハ兎ニ角ト致

シマシテ、利息ノ支拂ガ無イト云フ登

記ハ出來マセヌノデ、其點ハ元本ノ一

ハナイヤウニヘ考テ居リマス、勿論辨

濟部辨濟ヲ受ケタコト、ハ異ツテ居ルダ

ラウト思ヒマス、ツマリ登記ノ途ガ無

イ、登記ノ書キヤウガ無イ、斯ウ云フ

コトデアリマス

○名川委員 其利息ノ支拂方法デアリ

マスガ、登記ノ方ハソレデ能ク分リマ

シタガ、抵當證券ニ利率ノコトガ書イ

テアルト云フ時ニ、此抵當證券ニ利息

ヲ拂ツタコトガ書イテナカッタナラバ、

當然抵當證券ヲ持ツテ居ル者ガ、何年分

デモ全部利息ノ請求權ガアルモノデア

リマスカ、抵當證券ニハ利率ダケ書イ

テアルダケデアツテ、拂ツタ拂ハヌト云

フコトニ付テハ分ラヌカラ、抵當證券

ニ依ツテ主張ガ出來ルノデアリマスカ

ニ依ツテ立派ナ擔保ガ付テ居ルノデアリマスカ、ソレヲサウ云フコトニナリマスカ

レナイモノ、利息ノ支拂ガアツタ旨ガ

受取ノ記載ノナイ限りハ、其抵當證券

ヲ發行シマシタ時カラノ利息ハ支拂ハ

是ハ御承知ノコトデゴザイマスガ、登

記ニハ利息ノ約束ガアルト、利率ノコ

トガ書イテアルダケデアリマシテ、何

時マデノ利息ヲ拂ツタカト云フコトニ

付テハ、登記ガ出來ナイノデアリマス

マス

○名川委員 此二十六條ニ「債務者ガ

利息ノ支拂ヲ怠リタル場合ニ於テハ其

ノ延滞ガ二年ニ達シタルトキハ元本ノ

辨濟期到來シタルモノト看做ス」ト云

フコトニナツテ居リマスガ、此延滞ノ二

年ト云フコトニ局限セラレタノハ、何

カソコニ根據ガアルノデアリマスカ、

唯常識上二年位ナラバト云フコトデア

リマスカ、是ハ私共ノ考デハ、信用貸

借ナドナラデゴザイマスガ、サウデナ

ク、立派ナ擔保ガ付テ居ルノデアリマ

スカラシテ、利息ナドニ付テハ相當ニ

債務者ノ便宜モ圖ツテヤツテ、二年位デ

直チニ返濟期到來シタモノト見ルト云

フコトハ非常ニ酷デハナイカ、此點ヲ

ニ依ツテセナケレバナラバ、利息ヲ拂ハナケレバ

即チ信用貸借ト非常ニ違ハセナケレバ

貸借ニ付テハ、利息ヲ拂ハナケレバ期

限ガ到著スルト云フコトダケハ證券面

ニ書イテアルヤウデアリマスガ、立派

アリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ

○森田政府委員 抵當證券ニハ勿論利

率ガ掲ゲアルノデアリマスガ、利率ノ

受取ノ記載ノナイ限りハ、其抵當證券

ニ記載サレテ居ナイ限りハ、サウ

第三者ハ心得テ宜カラウト考ヘテ居リ

ナ擔保物ノアルモノニ付テハ、多少ノ  
ソコニ猶豫ノアルベキモノ、ヤウニ思  
ヒマスガ、即チ二年ト限定セラレタニ  
付テ、何カ事情ガアリマスカ、ソコヲ  
御聽キシタイ

○森田政府委員 此二年ト限リマシタ  
根據ハ、大體抵當權ガ擔保スル利息ノ  
範圍ガ、民法ノ規定ニ依リマスト二年  
ニナツテ居ル所カラ出タモノデアリマ  
スガ、併ナガラ實際ニ適用シテ見マス  
ト、アノ二年ト云フコトハ御承知ノヤ  
ウニ競賣代金ノ配當スル時カラ遡<sup>ツテ</sup>  
二年デアリマスカラ、此處デ申ス範圍  
トキッチリ合ハナイコトニナリマスケ  
レドモ、大體ハ抵當權ノ擔保スル利息  
ノ範圍ハ二年デアルト云フ所カラ胚胎  
シテ此規定ガ出來タノデアリマス  
○名川委員 此抵當證券ノ中ニ記載ス  
ベキ事項ガ書イテアリマスガ、第十二  
條デゴザイマシタカ、遲延利息ナドニ  
付テノ過怠約款、サウ云フヤウナモノ  
ハ此中ニ書クコトハ出來ナイノデアリ  
マスカ

○森田政府委員 ソレハ非常ニ分リニ  
ク、ナツテ居リマスケレドモ、四條ノ六  
項ニ、不動產登記法第百十七條ニ掲グ  
事項ト、斯ウアリマシテ、不動產登  
記法ノ百十七條ヲ見マスト、サウ云フ  
ヤウナ利息ノ定メダトカ、其他ノ特約  
ガアレバソレヲ申請書ニ書イテ來イト

云フコトニナリマスカラ、此四條ノ六  
項ノ規定ヲ十二條ニ引張<sup>ツテ</sup>居リマス  
ヒマスガ、即チ二年ト限定セラレタニ  
付テ、何カ事情ガアリマスカ、ソコヲ  
ラウト思ヒマス

○名川委員 サウ致シマスト云フト、  
過怠約款、即チ遲延利息デアリマスガ、  
是ハ御承知ノ通リニ、商人ト商人ニア  
ラザル者ニ依<sup>ツテ</sup>、遲延利息ノ利率ガ違  
ラバ約定利率、又約定利率デナケレバ  
法定利率以上ノモノハ、金錢債務ハ取  
レナイノデアリシテ、商行爲ニ依<sup>ツテ</sup>生ジタ  
ニナリマスルト、商行爲ニ依<sup>ツテ</sup>生ジタ  
スガ、抵當證券ハ初メ設定シタモノガ、  
商人ガ債權者ニナツテモ、或ハ他ノ者ニ  
輾轉シテ、素人ニ行クコトモアルカモ  
知レマセヌガ、サウ云フ時分ニ此遲延  
利息ト云フモノハ、勝手ニ幾ラトキメ  
テモ差支ナイモノデアリマセウカ、又  
利息制限法其他ノ規定ニ依<sup>ツテ</sup>、前ノ利  
率以上ニ書クコトガ出來ヌモノデアリ  
マセウカ

○森田政府委員 勿論利息制限法ニ超  
過スルモノハイケナイコトニナラウト  
思ヒマス、ソレカラ御話ノヤウニ、商  
行爲債務ノ法定利率ト普通ノ債務ノ法  
定利率ハ違ヒマスガ、證券ノ記載ニ依<sup>ツテ</sup>  
テ、其債務ガ商行爲カラ生ジタモノデ

云フコトヲ證券ニハ書クコトガ出來ヌト  
云フ今ノ御話デゴザイマスガ、若シ抵  
抗アリマスカラ、ソレ許サレテ居ル所ニ、普通人ニ渡<sup>ツ</sup>  
シテ、ソレヲ裁判上ニ於テモ認メラレ  
テ居リマス、即チ法律ノ規定ガアルノ  
デアリマスカラ認メラレマス、サウ云  
普通一般人ノ手ニ渡<sup>ツ</sup>タ時ニ、商人デコ  
ソアレ許サレテ居ル所ニ、普通人ニ渡<sup>ツ</sup>  
タラドウナルカ、是ハ非常ニムヅカシ  
イ御問デゴザイマシテ、能ク分リマス  
ヌガ、只今ノ思ヒ付キニ依リマスルト、  
證券債權、證券ニ化體サレタ債權デア  
リマスカラ、其證券通リノ約定ニ從<sup>ツテ</sup>



合ハヌヤウニ思フノデアリマス、勿論取消シタ後デアレバ、御説ノ通リデアラウト思フノデアリマスガ、取消シテ居ナイ前ニ於テハ、此條文ニハ入ラヌモノデ、隨テ異議ヲ言ハヌカラト云フテモ、其爲ニ脅迫ノ意思表示ヲシテ、其後ニ取消ヲ爲シタモノハ此十條ノ不利益ヲ受ケヌモノト、私ハ此條文カラ解説致シマスガ、サウハナラヌモノデアリマスカ

○森田政府委員 是ハ解釋論ノ岐レカモ存ジマセヌガ、結局證券ガ出ルコトニ異議ヲ言フノデアリマスカラ、異議ヲ言フトスレバ、取消ノ事由ヲ同時ニ言ハナケレバナラナイ、言ヘバソレデ此權利が無クナルノデアリマスカラ、結局其事實ト符合セナイコト、言ヘルダラウト考ヘマス、微妙ナ點デアリマスガ、サウ解釋シタ方ガ穩當デナイカト思ッテ居リマス、勿論是ハ反對説ガ其處ニ成立チ得ル餘地ハ十分アリマスケレドモ、サウ解釋スルノガ此法律ノ精神デアルト考ヘテ居ルノデアリマス

○名川委員 其處ノ問ハ其位ニシテ置キマスガ、未成年者ガ債務ヲ負擔シテ抵當權ヲ設定シテ置イテ、抵當證券ガ出タ後ニ之ヲ取消シタト云フヤウナ時ニ於テ、無論取消サレ、バ抵當權ハ是デナクナル、債務モナクナル譯デアル

ト思ヒマスガ、其時ニソレヲ貸シタ、ニ信ズルノデアリマス、併シソコガ非

常ニ微妙ナ所ダト思ヒマス、反對説モ

即チ最初ノ抵當權者ハ其未成年者ニ向テ不當利得ノ請求權ガアル、即チ金ヲ渡シテ居リマスカラ、不當利得ノ請

求權ガアルノデアリマスガ、此抵當證券ノ讓受人ハ、不當利得上ノ第一ノ抵當權者ガ持ツテ居ル所ノ權利モ繼承ス

ルモノデセウカ、ドウデアリマセウカ

○森田政府委員 ソレモ亦非常ニムヅカシイ問題デゴザイマスガ、此證券ニ現ハレテ居ル債權ト云フモノハ、

消費貨借デアリマスガ、債權者ト債務者トノ約束デ成立ツタ債權ガ證券ニ現

マスカラ、證券ノ持有人ハ、其未成年者ガ取消シタ後、不當利得ヲ返サナケレバナラヌト云フ權利ニデモ持タナイ

ヤウニ考ヘテ居リマスガ、ソレモ非常

アラウト思テ居リマス

○藍川委員 名川サンノ御尋ノ第七條

ノ第三ニ付テ、脅迫ノ場合ニ於ケル色

色御答辯ガアツタヤウデアリマスガ、御答辯ノ中ニ、解釋スルト云フコトヲ仰

ト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○大崎委員 私ハ初マリカラ質問ハ差

控ヘタイ、ト思ッテ、自分ノ思フコトダ

ケヲ申上ゲテ置キマシテ差控ヘテ居リ

マシタ、殊ニ本法ノ如キハ、成ベク一日モ早ク御實行ヲ願ヒタイト云フヤウ

ニ私ハ考ヘテ居リマスカラ、何等反對

カ、解釋ト云フト、何ダカ曖昧ナコト

ニナツテシマウ、立法ノ趣旨ハ、所謂ソナガラ今日マデノ此法律ノ制定、總テ

ノ條文ノ規定ト云フモノ、多クノ其條

バナラヌカラ本法ノ制定ヲ見タ、斯ウ

於テハ銀行業者ノミヲ擁護スルト云フ

ガ爲ニ第三者ノ國民ト云フモノガ、非常ナ影響ヲ受ケルカラ、ドウシテモ慎重ニ審議シナケレバナラヌト私ハ思

テ居ルノデアリマス、併ナガラ大體ニ

ニ讀ンデ掛レバ、法律ノコトデアリマスカラ、サウ云フヤウナコトノマダ取

消シテ居ナイ間ハ、瑕疵ノアル狀態ノ書イタノデアリマス、併ナガラ之ヲ逆

ス、私ハ此法律ヲ起草致シマシタ際ニ

ハ、左様ニ信ジテ是デ現ハレル積デ、

スカシイ問題デゴザイマスガ、此證券ニ

ニ現ハレル債權ト云フモノハ、

合シテ居ルノデハナイカト云フ議論ガ

成立ツト云フコトダケヲ申シタノデア

テ此法律ノ趣旨ハ、勿論ソレハ脅迫ニ

依ツテ設定シタ抵當權ハ取消シ得ベキ

狀態デアルト云フ時ニハ、異議ヲ述べナ

イ時ニハ是ハ對抗が出來ナイト云フ解

釋ガ正解釋デアルト思ヒマス、此法律

ノ趣旨モサウ云フ風ニ出來タノデアル

ト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○大崎委員 私ハ初マリカラ質問ハ差

控ヘタイ、ト思ッテ、自分ノ思フコトダ

ヲ及ボスノデアリマスカラ、此大ナル

影響ヲ及ボス點ヲ、一二三御尋シ、サウシ

テ念ヲ押シテ置キタイト思フノデアリ

マス

先ツ大藏省ノ關係ノ方ニ御尋シタイ

ト思ツテ居リマスガ、今日銀行業者ガ不

動産ニ投資ヲシテ、サウシテ行詰ツテ居

ルカラ、ソレヲドウシテ救濟シナケレ

バナラヌカラ本法ノ制定ヲ見タ、斯ウ

云フヤウニ始マリカラ御答端ヲ承テ  
居リマスガ、シマスルト現在ノ不動產  
デ約六十二億ヲ貸シテ居ルト斯ウ言ハ  
レマスガ、此六十二億ハ、日本ノ現在  
ノ本法施行地ニ於テハ關係ノ不動產ニ  
於テハ其面積、建坪、筆數、或ハ其價格  
ト云フヤウナモノ、概數ガ、私ハナケ  
レバナラヌト思フ、是ハナゼナケレバナ  
ラヌカト云フト、六十二億ノ金ヲ貸シ  
テ居リマスケレドモ、二三年前ニ貸シ  
テ居リマシタ不動產ノ貸付ト云フモノ  
ハ、約百圓ノモノニ五割ナリ六割ナリ  
七割ナリノモノヲ銀行ハ貸シテ置イタ  
ノデアリマス、所ガ現在ニナリマスル  
ト此六十二億ノ貸付ト云フモノハ、詰  
リ百億圓ナラ百億圓ノ金ニ六十二億ノ  
金ヲ貸付ケテ置イタノデアリマスガ、  
現在ノ地價或ハ物價ト云フモノハ、私  
共カラ見マスルト三分ノ一位ニナッテ  
居ルト思フノデアリマス、百圓ノモノ  
ガ三十圓位ニナッテ居ルト思フノデア  
リマス、サウスルト現在六十二億ノ債  
務ト云フモノハ、今度抵當證券ガ發行  
ニナッテ、之ガ抵當證券ニ替ル時ニハ、  
シナケレバナラヌト云フ結論ニナルト  
此六十二億ノ所謂擔保ヲ提供スルモノ  
私ハ思フノデアリマス、左様ナ結論ニ  
ナリマスルト、此日本ノ土地建物ノ所  
有者ガ、ソレヲ擔保トシテ金ヲ借りリテ

居タ者ハ、今日大ナル物件ヲ提供シナケレバ、ナラヌト云フ事實ニ陷ルノデアリマスカラ、本法ヲ施行致シマシテモ、ソレガ實行出來ルカ出來ナイカト云フ心配ガアルノデアリマスカラ、本法施行地ニ於テ、其土地建物ノ建坪、面積若クハ見積價格ト云フモノヲ明細ニ御調ニナツテ、サウシテ本法ガ實行出来ルカドウカト云フコトヲ確メナケレバナラヌ、本法施行豫定地ニ於ケル現在セル不動產ノ面積、建坪、件數、其見積價格ト云フヤウナモノヲ、是非御調査ヲ願ヒタイ、又私ガ御尋シナクテモ、左様ナコトヲ請求シナクテモ、政府ハ當然是ハ調べナケレバ、ナラヌ斯ノ如キ重大關係ノアルモノヲ、未調査ノ中ニ之ヲ實行シヨウト云フヤウナコトハ當ラナイト思ヒマスカラ、私ハ大藏當局カラ之ヲ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス。

ソレカラ又現在土地建物ヲ所有シテ居ル者ガ、本法施行地内ニ抵當權ガ其何割設定シテアルカ、私ハドウシテモ本法ガ施行サレルト、先程言フヤウニ約三割ノ物件ヲ提供シナケレバ、ナラヌノデアリマスカラ、此割合ガチヤント頭ニ入ツテ居リマセヌト、本法ヲ施行致シマシテモ、茲ニ色々々ノ衝突ガ起リ重大問題ガ起ルノデアリマスカラ、私ハドウシテモ精細ナル割合ヲ承知シテ

置カナケレハ、本法ヲ施行スルコトニハ贊躊躇スル、本法ヲ施行スルニトニ成デアリマスルガ、重要ナル調査ヲ其儘ニシテ實行スルト云フコトハ、餘程考ヘナケレバナラヌカラ、其割合ニ付テ明確ナル調書ヲ御願シタイノデアリマス

ソレカラ先程板谷サンカラ御質問ニナリマシタ資本利子稅ニ付テ御尋致シマス、資本利子稅ヲ徵收スルノニ不都合ガアルノハ勿論ノコトデ、是ハ徵收スルノガ不利デアルト同時ニ、此不便ノ結果ハ、何處へ其損害ガ行クカト言ヒマスト、ヤハリ代理抵當權者、詰リ個人デ貸シテ置ク人ニ此尻ガ行クノデアリマス、是マデノ例ニ依リマスト、今日マデ資本利子稅ニ對スル第三種所得稅ヲ稅務署デ徵收スル方法ハ、登記簿ニ載ツテ居リマスレバ、ソレヲ取消サウガ取消スマイガ、三年デモ四年デモ繼續シテ必ズ取ツテ居ル、是ハ實際デス、大藏省ノ御方ガ御出デニナリマスカラ其先例ヲ御目ニ掛ケテモ宜イガ、二年デモ三年デモ取ツテ居ル、登記簿ニ書イテアレバ、ソレヲ證據トシテズット取ツテ居ル、間違ツテ居ルカラ稅務署デ決定シタ後デ、ソレガ發見サレルノデ居ル、稅金ノ缺點ハ、第三種ノ所得ガ

シマツテ何モアリマセヌ、登記済ニナツ  
テ居ルノニ、ソレヲ二年モ三年モ前ノ  
モノヲ税務署ノ役人ハドン／＼ト第三  
種ノ所得ヲ決定シ、資本利子税ヲ課ケ  
テ來ル、サウシテ後デ色々ナ手數ヲ掛  
ケテ、登記謄本ノ下附ヲ願フテ税務署へ  
持ツテ行ツテ、一圓カ二圓ノ税金ヲ下ダ  
テ貰フノニ五圓モ七圓モ自動車賃ヲ  
使ツテ、資本利子税ノ不當課税ト云フモ  
ノヲ取消スト云フコトハ、税務署ニ澤  
山在ルノデアリマス、サウ云フコトデ  
アリマスカラ、本法ノ施行ニナルト同  
時ニ第一番ニ抵當證券ヲ發行シタ時ハ  
皆其處へ持ツテ行ツテ税務署ノ役人ハ、  
必ズ資本利子税若クハ第三種所得税ト  
云フモノヲ賦課スルニ相違ナイ、而モ  
其人ハドン／＼ト輾轉シテ參リマスカラ  
ラ、其人ガ變ル爲ニ非常ナ煩雜ト非常  
ナ苦心ヲ爲シ、又非常ナ損害ヲシナケ  
ノ役人ガ月給ヲ貰ツテ居ツテ閑デアルカラ  
レバナラヌ、税務署ノ方デハ何處カラ  
カ取ラナケレバナラヌガ、幾ラ税務署  
テ居ル譯デハナイ、デアルカラ是等ハ  
チヤント決メテ、納稅者ニ迷惑ノ掛ラ  
モニ輾轉シテ居ルモノヲ一年間モ調べ  
政府ノ役人ハ、本法ヲ制定スル時ニ第  
三種所得税、資本利子税ハ是レ々々ト  
ナイヤウニ出來テ居ルト云フコトノ工

風ガナケレバナラヌト私ハ思フノデア  
リマス、然ルニソレガ曖昧デアリマシ  
テ、御答辯ガ明確ヲ缺イテ居ルノデア  
リマス、殊ニ小川サンガ十分ニ御調べ  
ニナツテ居ルヤウデアリマスカラ、税金  
ヲ納メル人ニ非常ニ迷惑ヲ及ボスト云  
フコト、又税務署ニ非常ナ煩雜ヲ來ス  
ト云フヤウナ點ハ、明確ニシテ裁カナ  
ケレバナラヌト思フノデアリマス  
ソレカラモウ一ツノ、私共ガ委員諸  
君ト非公式ニオ互ニ話合フテ見マスト、  
人口ガ密集シテ居ル所ニハ、成ベク本  
法ヲ施行シタイト云フ希望ヲ持ッテ居  
ル、併ナガラ是ハ勅令ヲ以テ定メルト  
云フコトニナツテ居リマスカラ、政府ノ  
手加減デ其時ノ政府ノ方針ニ依ッテ變  
更ガ出來ルカラト云フヤウナ御話デア  
リマスルガ、併ナガラ本法ヲ施行スル  
ノニハ、經費ガ掛ルシ、又田舎ノ方ニ  
モ非常ニ影響ガアルノデアリマスカラ  
私共ハ人口一萬以上位ノ都市ニハ是非  
布キタイト思フテ居ルノデアリマス、一  
萬以上ノ都市ニ之ヲ施行スルト致シマ  
シテ、何箇町村ノ増加ガ出來マスカラ  
又ソレガ爲ニ登記所ハドレ位殖エルカ  
又ソレガ爲ニ設備費ガドレ位掛ツテ、ソ  
レガ爲ニ經常費ハドレ位掛ルカト云フ  
ヤウナコトヲ私ハ是非承リタイノデア  
リマス

ニ於テハ世論金融業者タル勸業銀行、農工銀行、拓殖銀行其他ノモノガ主トシテシナケレバナラヌコトハ、私モ能ク承知シテ居リマス、ソレト同時ニ債務者ト云フモノヲ非常ニ見テヤラナケレバナラヌ、又債務者ヲ見テヤルニ付キマシテハ、ヤハリ借家人借地人ト云フモノニ自然影響ガアリマス、此點ハ前カラ申上ゲテ置キマシタガ、政府ガ本法ヲ制定スル場合ニハ、借家人借地人若クハ債務者ト云フヤウナモノニ何等カノ便宜ヲ與ヘテヤラナケレバナラヌノニ、唯幾ラカ本法ヲ制定スレバ圓滑ニナルダラウ、金ガ借り易イダラウト考ヘテ居ルト、ソレダケノ答辯デアッタケレドモ、私共ハ之ヲヤツタナラバ、モ、抵當證券ガ發行ニナリマスト、勿却テ惡クナルト思フ、金ガ借易クナルダラウト云フコトデアリマスケレド論二番抵當ト云フモノガナクナッテシマフ、三番抵當ト云フモノモナクナッテシマフ、抵當證券ニ限ッテシマフノデアルカラ、後ノ金融ハ抵當證券ヲ手離シテシマヘバドウスルコトモ出來ナイコトニナル、辨濟期間ガ過ギルト競賣ニ付サレルコトニナルノデアリマスカラ、抵當證券トシテノ不動産ハ、御ナリ、金融ガ圓滑ニ行クヤウニ思ヒマテシナケレバナラヌコトモ出來ナイ、非常ニ土地ヲ持ッテ居ルモノニ便宜ニシテ居リマスカラ、ソレバナラヌノデアリマスカラ、物ガ下ッテ金ガ尊クナッテ、サウシテ金融ヲ圓滑ニシナケルモノガアリマスカラ、土地位業者ト云フモノガアリマスカラ、ソンナニ擔保ヲ提供スルモノガアリマスカラ、土地家屋ヲ所有シテ居ル者ヲ考ヘナイデ、唯銀行ノ運用ノ方バカリニ大變便宜ヲ與ヘ

テアル、農工銀行法ニ於テモ、第二十六條ニ於テ十倍ヲ十五倍ニスル、拓殖銀行法ノ第十三條ニモ十倍ノモノヲ五倍ニ直ス、詰リ銀行ノ方ハドン／＼ト利便ヲ圖ツテ居リマスケレドモ、現在ノ債務者ノ利便ノ行詰リト云フコトハ、是ハ私ハ小川サント意見ヲ異ニシテ居リマスガ、資本ノ行詰リト云フコトハ何處カラ起ツテ來タカト言ヘバ、金ガ行詰ツテ、物價ガ下ツタカラデアリマス、土地建物ノ抵當ト云フモノハ動カナクナツタカラ、資本ノ圓滿ヲ缺イテ來タ、若シ現在ノ土地家屋ヲ、百圓ノモノガ二百圓ニナルト云フノナラバ、行詰リハ決シテ起ラナイ、土地建物ガドンドン上ツテ行ク時ニナリマスト、詰リ百圓ノモノガ二百圓ニナル、ソレガ今度二百圓ニナレバ百圓借リラレルカラ、ドン／＼不動産ノ金融ト云フモノハ圓滑ニ行ク、ソレガ行カナイト云フノハ金融狀態ガ惡クナツタカラ、茲ニ金融ノ圓滑ヲ缺イテ來タノデアリマス、此點ハ小川サント私ハ意見ヲ異ニシマスケレドモ、不景氣カラ來タ金融ノ梗塞ナノデアリマス、デアリマスカラ理論カラ言ヒマスレバ、銀行ノ資本金ナドハ半額ニシナケレバイケナイモノヲ、ソレヲ倍額ニシタリ、十五倍ニシタリト云フヤウナコトデ、殆ド銀行ノミノ便利ヲ圖ツテ、サウシテ他ノ債務者若クハ

借地人、借家人ト云フヤウナ者ニ如何ナル思想ノ影響ヲ與ヘルカト云フヤウナコトハ、些トモ考慮シテ居ラナイト云フヤウナコトガ、非常ニ私ハ意見ガ相違シテ居リマス、此十倍若クハ十五倍ニ殖スト云フコトハ、私ハ民間ニソレ程金ノ需要ガナイ、不動産ヲ擔保ニシテ、ソレダケノ金ヲ使フコトガ出来ナイモノヲ、新ニ此處デヤル必要ハナイデハナイカト思フ、ソレガアルナラバ明確ニ是ダケノ土地建物ガアルカラ是ダケノ土地建物ニ茲ニ金ヲ貸出サナケレバ、日本ノ金融ハウマク行カナイカラト云フコトヲ、計數ヲ擧ゲテ、數字的ニ御答辯願ヒタインデアリマス、此四點ヲ明確ニ御答辯願ヒマス

スルコトニナルカ、又登記所ノ分布ハ、各府縣ニ亘ラテドウ云フヤウナ狀態ニナツテ居ルカト云フコトヲ参考ノ爲ニ承ル必要ガアル、又市制施行地、即チ本法ヲ施行サレル區域ニ於ケル土地建物ハ、現在ニ於テ凡ソノ見積價格ハドレテ、抵當證券法ナルモノガ利用サレル場合ニ於テ、最モ必要ノアル参考資料ト考ヘルノデアリマス、幸ニ其参考資料ガ本日中ニ御提出ガ願ハレマシ得ルト云フコトデアリマスルナラバ、委員長ノ御希望通リ本日質問ヲ終了スルコトニ付テハ何等差支ナインデアリマスカラ、此點ハ一ツ豫メ御諒承ヲ願ツテ、サウシテ速カニ今大崎君ノ申サレタル所ノ參考資料ヲ御提出アランコトヲ希望致シマス

積價額、斯ウ云フモノヲ調ベロト仰シヤ  
ベ惡イトイ思ヒマス、殊ニ是ハ貸シタ銀  
行ガ一ツデハアリマセヌ、不動產金融  
特殊銀行等モ貸シテ居ル、個人モ貸シ  
テ居ラウト思フノデアリマシテ、サウ  
云フ調べハ中々出來兼ネマス、尙ホ其  
外ニ都會ノ土地ノ何割ガ抵當權ヲ設定  
シテ居ルカ、マダ抵當權ヲ設定シテ居  
ナイモノガ何割アルカト云フヤウナコ  
トハ、實際調べ兼ネマス、ソレハ御容  
赦ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ第  
二點ハ、資本利子稅ノ問題デアリマス  
ガ、此事ハ度々繰返シマシタカラ、同  
ジコトヲ申上ゲルノモ甚ダ失禮カト思  
ヒマスカラ、意見ノ相違ニナラウト思  
ヒマシテ、是モ一ツ御諒承ヲ願ヒタイ  
ト思ヒマス、唯只今御話ニナリマシタ  
ヤウニ、抵當權ヲ設定シタモノニ何時  
マデモ同ジヤウニ稅ヲ課ケテ行クト云  
フヤウナ御話デアリマスガ、是ハ所得  
調査デ、資本利子稅カラ言ヘバ、利子  
ノ調査デアリマスカラ、調査ノ便宜上  
登記所ニ付テ抵當權ノ設定シテアルヤ  
否ヤヲ見ルノデアリマス、ソレカラ抵  
當證券ヲ發行スレバ、其第一ノ抵當權  
者ガ利子ヲ得テ居ナイト云フコトハ、  
ソレニ依テ反證セラレルノデアリマ  
スカラ、其第一ノ抵當權者ニ資本利子

税ヲ課ケルト云フヤウナコトハ私ハナ  
イト思フ、又隨テソレニ付テ第三種所  
得稅ガ課ケラレルト云フコトモナイト  
思フ、少クトモ抵當證券ヲ發行シテ居  
ル以上ハ、債權者ハ他ノ人ニ移ッタト云  
フコトガ、ソレニ依ツテ反證セラレル、  
ソレニモ拘ラズ稅務署ガ更ニ其人ニ課  
ケルト云フコトハ私ハアルマイト考ヘ  
ル、サウ云フ非常識ナコトハ稅務署ハ  
ヤラスト思フ、ソレカラ第四點デアリ  
マスガ、是モ債務者ガ不利ニナルト云  
フヤウナ御考デ、始終御議論ヲ爲サツテ  
居ラツシヤルノデアリマスガ、此點ニ付  
キマシテモ、大體ノ趣旨ハ大崎サント云  
モ既ニ問答ヲ重ネタト思ツテ居リマス、  
唯勸業銀行ノ改正ノ條項ニ關聯シマシ  
テ、六十二億アルカラ、百二十億モ出  
ルト云フヤウナ御話モアリマスケレド  
モ、ソレハサウデモアルマイト思フ、  
勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行  
ガ貸シテ居ルノハ十二億五千萬圓ニ過  
ギナインデアリマシテ、是ガ爲ニサウ  
云フヤウナ貸付ノ方ニ多クノ資金ガ出  
來テ來ルト云フコトハ、此法律ノ改正  
ニ依ツテ、ソレハ事實デアリマス、併シ  
ソレニ依ツテ何カ外ノ物價ガ高クナル  
トカ、景氣ガ好クナルトカ云フヤウナ  
結論ハ私ハ出テ來ナイト思フ、此事ハ  
此間申上ゲマシタカラ、繰返ス必要ハ  
ナイト思フ、尙ホ大崎サンノ御話デバ、

物價ガ下ツタカラ不動産金融ガ行詰ツタト云フ御話デアリマスガ、私ハ大崎サニニモ御尋シタイノデス、實ハ物價ノ下ラナイ以前ニ、不動産金融ト云フモノハ行詰ツテ居ナカッタカ、不動産金融ト云フモノハ、動モスレバ固定シ易イト云フ傾ハナカッタカドウカ是ハ事實問題デアリマス、私ハヤハリ不動産金融ハ行詰ツテ居ツタト考ヘルノデアリマス、是ハ事ノ性質上サウ云フモノデハナイカト思フ、サウ云フ所ニ立脚致シマシテ、今回ノ法律案ガ出テ居ルノデアリマス、唯此内閣ガ出來テカラ直グ不動産金融ノ行詰リガ忽然トシテ現レタト云フノハ、少シ酷イ御觀察デハナイカト思フ、其處ニナレバ意見ノ相違デアリマセウ、私ハ斷ジテサウデナイト考ヘテ居リマス

テドンヽ貸出シタ件數ト、本年貸出シタ件數ヲ御調査ニナレバ必ズ分ル、左様ナコトハ論ヲ待タヌ、其事實ガチヤント分リマスレバ——御承知デアッタラ其計數ヲ擧ゲテ戴イテ、昭和二年度ハ是レ々々ノ金ヲ貸出シテ居ル、三年度ハ是レ々々ヤツテ居ルト云フヤウニ、昭和五年六年ト計數ヲ見レバ、行詰ツタカ行詰ラナイト云フコトガ明瞭ニ分ルカラ、意見ノ相違デモ何デモナイ、實際問題デアリマスカラ、私共ノ承知ノ出來ルヤウニ、昭和五年若クハ昭和六年ニナツテ、急ニ行詰マナツタノカ、或ハ二年三年ニ行詰ツタノカト云フコトノ調査表ガアレバ分ル、意見ノ相違デハナイ、一番初メノ第一問ノ調査表ガ出來ナイト云フ御説明デアリマスルガ、私共ハ出來ナケレバ自分デソレヲ調査シナケレバナラスト思フノデアリマス、是ハドウシテモ現在ノ總額六十二億圓、本法施行地ガ二十四億圓ト致シマシテモ、是ガ抵當證券ニ變ル時ニハ、必ず増擔保ノ餘計ナモノヲ非常ニ入レナケレバナラヌト云フコトハ、火ヲ賭ルヨリモ明カデアリマス、私ハサウ思フ、火ヲ賭ルヨリモ明カデアル、其時ニサウ云フ人ハ、誰ニ擔保ヲ入レ多數ノ土地建物ノ擔保ヲ提供シナケレ

バナラヌト云フノガ重大問題デアリマス、之ヲ若シ許サレズニ本法ヲ御制定ニナツタストスレバ、私ハ實ニ其御見解ニ苦ムノデアリマス、私共ガ言ハヌデモ、斯様ナモノハ調査ガ出來テ居ツテ本法ヲ施行スルト是レ々タデアル、今ノ擔保物ガ抵當證券ニ變ル時ニハ是ダケ擔保ガ減ルカラ、是ダケ増擔保ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ、大藏省トシテハ當然調べテ居ラナケレバナラヌトイ思ツテ居ルノニ、ソレガ出來ヌト云フ、ソンナ不誠意ナ答辯ハナイ、若シ出來ヌトスレバ、私共ハ個人トシテ統計年鑑ナリ何ナリヲ調べマスレバ直グニ調べラレルト思ヒマスカラ、私共ノ調べノ出來ルマデ、此議事ヲ延期シナケレバナラヌト思ヒマス、デ私ハ是非之ヲ出シテ戴キタイト思フノデアリマス○小川政府委員 大崎サンノ御話ノ中ニ、増擔保トカ云フ御話ガアリマシタガ、一體抵當證券ハ、現在抵當トシテ居ル物ニ付テ、抵當證券ヲ發行スルノデアリマスカラシテ、増擔保トカ何トカ云フ問題ハ起ツテ來ナイノデアリマス、尙ホ最初ニ御話ニナリマシタ六十ニ億ノ數字ニ關係シマシテ現内閣ニナツテ急ニ不動産金融ガ行詰ツタト云フ御話デアリマスガ、是ハ數字ヲ一寸申上ゲタラ分リマスガ、吾々ガ六十二億四千萬圓ト言ツテ居ルノハ昭和三年ノ

現在デアリマス、昭和三年ノ前内閣ノ時ニ、既ニ六十二億アツタノデアリマス、昭和二年ハドウデアツタカト云フト、五十七億八千萬圓デアリマス、前内閣ノ時ニハ、既ニ六十二億ノヤウナ大キナ數字デアツタノデアリマス、是ハ決シテ不動産金融ガ行詰ッテ居ナイトハ言ハレマイト思フノデアリマス、數字ノ上ニ多少増シテ來テ居ルノハ、増シテ來テ居リマス、昭和元年ハ五十五億デアリ、昭和二年五十七億八千萬圓、更ニ前内閣ノ時代ニ六十二億四千萬圓ニナツテ居ルノデアリマスカラ……。

○大崎委員 昭和三年、四年、五年、六年ハドウナツテ居リマス

○小川政府委員 ソレハマダ數字ガ集リマセヌ、個人ノ貸シタモノ、普通銀行ノ貸シタモノカラ、不動産金融ノ専門銀行マデノモノヲ集メルト云フコトハ、サウ早ク出來マセヌ

○板谷委員 私ハ大藏次官ニ質問シタイト思ヒマスガ——今大崎君ガ大藏省ヘ要求スルコトハ、私ハ決シテ無理ナ註文デハナイト思ヒマス、屢々政府ガ答辯シテ居ラル、ヤウニ、此法案ハ先づ第一ニ市制施行地ニ行ハナケレバナラヌ、而シテ段々農村ニ及ボス此信念ノ下ニ、恐ラク政府ハ立案サレル際ニ於キマシテハ、之ヲ全國的ニ布クト云フ場合ニ於テハ、ドウ云フ結果ニナルカ、

一萬以上ナラバドウデアルト云フコトハ、大體ノ案ナルモノガナケレバナラヌ、決シテ私共ハ是カラ御調べナサイト云フコトヲ申上ゲルノデハナイ、又其案ガナクシテ、市制施行地ニ限ッテ布クト云フ案ガ何所カラ一體出タノデス、ダカラ私ハ決シテ無理ナ註文デハナイ、今日是ハ根本問題トシテ最モ重要ナ参考資料デアリマスカラ、是非共御提出ヲ願ヒタイ、既ニ時間モ經ッテ居リマスカラ、此處デ一ツ休憩ヲ願ヒタイ思ヒマス

○小川政府委員 板谷サンハサウ御話ニナリマスケレドモ、六十二億四千萬圓ノ不動産金融ノ中デ、個人ガ貸シテ居ルモノモ二十七億五千萬圓デアリマシテ、殆ド半分ニモ近イモノガアリマス、サウ云フモノ、調ハ中々ムヅカシクアリマス、實際アナタノ方デ直グ調ベラレルト仰シャイマスケレドモ、サウ云フモノハ實際ノ所アリマセヌ

○荒川委員長 ソレデハ第三點ノ説明ヲ……

○森田政府委員 一萬以上ノ町村ニ施行スルト、ドノ位場所ガ殖エルカト云フコトヲ、昨年ノ國勢調査ノ結果調べテ見マスルト、一萬以上ノ町村ノ數が五百六十七デアリマス、サウシテ既ニ施行ノ豫定地ニナツテ居ルノハ市制ノ

布カレテ居ル所ト、ソレカラ浦和町ト、  
借家法ノ行ハレテ居ル所ヘ施行スルト  
云フ豫定デ、其管轄スル登記所ノ關係ヲ  
調べマスト、百四十二アリマス、百四十  
二ノ登記所デ此事件ヲ扱フト云フコト  
ヲ考ヘテ居ツタノデアリマス、所ガ今申  
シマシタ五百六十七、此五百六十七ノ中  
ニハ、澁谷町、品川デアリマストカ、サウ  
云フモノガ含マレテ居リマスガ、サウ云  
フモノヲ差引キマスト、ドノ位ノ登記所  
ガ之ヲ管轄シナケレバナラヌカト云フ  
數ヲ調ベルト三百六十八ノ登記所ガ之  
ヲ取扱ハナケレバナラヌ結果ニナツテ、  
其合計ガ五百十ノ登記所デヤラナケレ  
バナラヌコトニナリマス、日本全國ノ登  
記所ノ數ハ千八百アリマスカラ、千八百  
ノ中ノ五百十ガ行フコトニナリマス、  
之ヲサウ云フ風ニシテ行ヒマス上ニ於  
キマシテ、經費ガドノ位掛ルカト云フ  
コトハ、是ハ算盤ヲ採リマスレバ直グ  
分ルコトデアリマスガ、マダ其調査ガ  
出來テ居リマセヌガ、百四十二ノ登記  
所デ行ヒマスニ付テ、大體初年度ハ  
五十萬圓バカリ、數ハ此間民事局長カ  
ラ申シマシタガ、概數ヲ申上グマスト、  
次年度カラ約二十五六萬圓ノ金ガ要リ  
マス、ソレハ百四十二箇所デ行ヒマシ  
テ、ソレダケノ金ガ要ルノデアリマス、  
三百六十八ヲ殖ヤスト云フト、相當當  
ガ掛ルダラウト考ヘテ居リマス

○小川政府委員 抵當證券ヲ發行スル  
ノハ、現在ニ抵當權ガ設定シテアルモ  
ノニ付テ、ソレヲ證券ニ移スダケノモ  
ノデアリマシテ、其他ノ問題ハ別問題  
デアリマス、若シアナタノヤウニ、今  
物價ガ下ツテ、不動產ノ價格ガ下ツテ居  
ルト云フコトデアリマスガ、抵當證券  
ヲ發行スルト云フノハ、既ニ設定セラ  
レテ居ル所ノ抵當權ト云フモノヲ證券  
ニスルト云フニ過ギナイノデアリマス  
○瀬川委員 其增擔保ハ或場合ニハ、  
假ニ十萬圓ノ價值ノアツタ土地ガ安ク  
ナツタ致シマシテ、ソレガ何割何分安  
ガアルナラバ増擔保トシテ入レテ吳レ  
ト云フヤウナ話ナドガアリマシテ、ソ  
レハ相互ノ間ニ於テ話合ガ付イテ居ル

モノガ實際アル、併ナガラ債權者ガ自  
分ノ權利ヲ證券化セシメテ、又更ニ金  
融ノ途ヲ講ジヨウトスル時ニハ、今度  
ハ具體的ノモノニナルガ、其時ニハ從  
來相互間ニ於テ價格ガ安クナツテ、モウ  
少シ欲シイカト思ツテ居ツタ程度デナ  
ク、今度ハ新ニ價值ノ有ルモノヲ取ラナ  
ケレバナラヌ、關係ニナルト思フ、個  
人間デアリマシタナラバ、十萬圓貸シ  
テアルケレドモ、擔保ガ十萬圓ニ充タ  
ナイカラ、自分ノ資金ハ兎モ角、價值  
アルダケヲ第三者ニ譲ラウト云フコト  
モ出來マセウケレドモ、公ノ株式會社  
トカ、銀行トカ云フモノニアタナラバ、  
サウ云フコトハ取扱ニクイト思フ、サ  
ウ云フ時ニハ債權者ガ證券ヲ作ル時ニ  
ハ、增擔保ノ要求ガ起リハシナイカト  
考ヘルノデアリマス

此會ヲ開キ、ソレカラ其様子ヲ見テ休憩致シ、ソレカラ本會ノ決議後ニ開クヤウニナレバ、其時分ニ又御協議致シマス、ドウゾサウ云フコトニ一應御諒承願ヒマス、ソレデハ午後一時半ヨリ開會スルコトニ致シマシテ、是デ休憩致シマス

午後一時五十分開議

○荒川委員長 是ヨリ抵當證券法案外  
九件ノ委員會ヲ休憩前ニ引續イテ續行  
致シマス、委員松尾四郎君辭任ニ付キ  
松田正一君ガ議長ヨリ補闕トシテ指名  
セラレマシタ

委員 私モ本法案ノ根本問題ニ  
マシタ

○中田委員 私モ本法案ノ根本問題ニ  
關スルコトデ屢々繰返サレテ居ル點デ  
アリマスカラ、成ベク重複ヲ避ケマシ  
テ、私ノ疑問トスル要點ヲ簡單ニ御伺  
致シテ見タイト思ヒマスカラ、重複ノ  
所ガアリマシタラ御許シヲ得タイト思  
ヒマス、此前大藏大臣ノ御出席ノ時ニ  
一寸申上ゲテ申上ゲテ置イタノデアリ  
マスガ、不動産金融ノ特質ト云フノハ、  
期限ガ長ク借りラレルト云フコト、  
随テ金融ガ固定勝ニナルト云フコト、  
利子ガ之ニ伴ウテ高率ニナルト云フコ  
トトガ——其他種々アリマセウケレド  
モ——大體ニ於テ不動産金融ノ特質ニ  
ナツテ居ルト思ヒマス、隨テ借りル方ノ

カト云フヤウナ御意見ガアリマシタ  
ガ、金融ヲ滑カニスルコトハ、即チ債  
權者、債務者兩者ニ對スル便益ノ爲デ  
アルト云フコトハ、一應私ハ否定ハ致  
シマセヌケレドモ、不動產金融ノ特質  
タル長期借用ト云フコトガ、此爲ニ無  
クナツテシマフト云フコトハ、利息ガ今  
マデヨリモ安クナル、或ハ金融ガ割合  
ニ樂ニナルト云フ位ノ便益ニハ代ヘラ  
レナイ借主ノ方ノ側ノ苦痛ダラウト思  
ヒマス、其邊ニ付テ私ハ御伺シテ見タ  
イト思フノデアリマス、本證券法案ノ  
缺點デアル所ノ長期ノ金融ヲ妨ゲルト  
云フ點ハ、即チ本案ノ二十七條ニ依テ  
抵當證券ノ所持人ハ元本ノ辨濟期後一  
月内ニ債務者ニ對シテ支拂ノ請求ヲ爲  
スコトガ必要デアルガ、若シ支拂ノ請  
求ヲシテ拒絶サレタ場合ニ於テハ、抵  
當證券ノ所持人ハ公證人、又ハ執達吏  
ニ其支拂ナキ旨ノ證明ヲ求ムルコトガ  
必要デアル、サウ云フ手續ヲシナケレ  
バ、裏書人ニ對スル償還請求ト云フコ  
イ、裏書人ニ對スル償還請求ト云フコ  
ノ競賣ヲ促進スル規定ヲ設ケタノデア  
リマスルガ、私ハ茲ニ主客顛倒ノ感ガ  
アルノデアリマシテ、裏書人ノ爲ヲ考  
ヘズニ借主ノ方ノ立場ヲ考ヘテヤル建  
前ニ法案ヲ作ラナケレバイカヌト考ヘ  
ルノデアリマス、其點ニ付テ意見ヲ附

考デハ例ヘバ現行法律ニ於キマシテ、  
抵當權ヲ設定シタ場合ニ、其抵當權ノ設  
債權證書ニ保證人ガアル場合、並ニ抵  
當物ガ他人ノ所有デアッテ、抵當權ノ設  
定者ノアル場合、斯ウ云フ場合ニ於テ、  
債務者ガ債權者ト相談ヲシテ、期限ヲ  
延セバ、其延期ハ有效ニナルモノデアッ  
テ、保證人カラモ苦情ヲ言ヘナイン、  
抵當權設定者カラモ苦情ヲ言ヘヌコト  
ニナツテ居ルノデアリマス、所ガ保證人  
デハアリマセヌケレドモ、裏書人ノ義  
務ハ一ツノ擔保義務デアル、其内容ニ  
於テハ保證債務ト變ル所ハアリマセ  
ヌ、現行法ノ規定ニ依ツテ、保證人若ク  
ハ最モ重要ナル利害關係人デアル擔保  
權設定者ガ、抵當權設定者ニ拘ラズ延  
期ガ出來ルノデアリマスガ、此裏書人  
ニ對シテハ必ズ其權利ヲ尊重シテ、其  
爲ニ競賣ヲ促進シ、債務者ノ不利益ヲ  
來スヤウナコトヲ顧ミナイト云フコト  
ハ、私ハドウモ法ノ建前トシテ宜シク  
ナイヤウニ考ヘルノデアリマス、此點  
ニ付テ之ヲ救濟スル方法ガアッタナラ  
バ、救濟スル御考ハナイカ、例ヘバ裏書  
人ノ承諾ヲ得ナクテモ、期限ニ至ツテ債  
權者ト債務者トノ間ニ於テ延期ヲ契約  
スレバ、其契約ガ有效デアッテ、延期ガ  
出來ル、併ナガラ其延期ノ契約ガ著シ  
ク裏書人ノ不利益ナ狀態ニ於テナサレ

タ場合ニ於テハ、裏書人ハ異議ヲ述ルコトガ出來ル、或ハ裁判所ノ許可ヲ得テ、相當ノ擔保ヲ要求スルコトガ出來ルヤウナ方法、又ハ裏書人ヲシテ滌除ト同様ナ辨済行爲ヲナサシムルコトガ出來ル、或ハ一部ノ入金ヲ要求スルコトモ出來ル、此裏書人ノ權利ヲ相當ニ尊重シテ、債務者ニ長期据置、或ハ延期ヲスルコトガ出來ル機會ヲ十分ニシリヤルコトガ、私ハ此法案ノ最モ重大ナル缺點ヲ補フ途ダト考ヘルノデアリマス、其點ニ付テ先づ一つ御考ヲ願ヒタイシ、又御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、

ハレルノデアリマスカラ、此法律ガ出来マシタカラト云フテ特ニ嚴シクナルコトハナカラウト考ヘルノデアリマス、ソレカラ只今御話ノ物權ノ貸主ト債務者トガ變ツテ居ル場合ニ、債務者ト債權者ガ同意スレバ延期ガ出來ルト仰シヤイマシタガ、私共ノ考ヘル所ニ依リマスレバ、ソレハ物權ノ貸主ノ承諾ガナケレバ只今デモ延期ガ出來ナイト云フ手續ニナツテ居ルト考ヘテ居リマス、其點デ裏書人ノ同意ヲ要求シタトガナケレバ只今デモ延期ガ出來ナイト云フコトハ、現在ノ法制ト變ツテ居ナイノデアリマス、此法律ニ三ヶ月内ニ競賣ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス、斯ウ云フコトガ書イテアリマスカラ、非常ニ競賣ガ殖エルト云フ御見込デアリマスガ、是ハ私共ノ考デハサノミ之ニ依ッテ色々證券ガ總テ競賣ニナルトハ考ヘテ居ルノデアリマス、抵當權ヲ實行致シマスレバ如何ニ事件ガ順調ニ進行シヤハリ溫和ニ事柄ヲ解決シタイト思フテ居ルノデアリマス、抵當權ヲ實行致シマスレバ如何ニ事件ガ順調ニ進行シマシテモ、相當日限ガ掛ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ債權者ノ立場カラ考ヘマシテモ、サウ無暗ニ競賣ヲ申立テルト云フコトガ必要ニナツテ居リマスガ、裏書人ニ致シマシテモ、物ガヘラレマス、ソレカラ茲ニ裏書人全員ノ同意ト云フコトガ必要ニナツテ居リマスガ、裏書人ニ致シマシテモ、物ガ

振掛<sup>ツテ</sup>來ルノデアリマスカラ、是ハ債務者ナドト共同致シマシテ、債権者ニ頼ミニ行クト云フ實情ニナラウカト考ヘテ居リマス、サウ致シマスレバ、債権者トシマシテモ亦左程競賣バカリスルコトモイケマセヌカラ、相當條件ニ依<sup>ツテ</sup>折合ガ著クト考ヘテ居リマス、法律ヲ正面通リ讀ムト必ズ三月内ニ競賣ガ行ハレルヤウニ見エマスガ、實際ヲ考ヘテ見マスト從前ト殆ド變ラナイ狀態、事件ノ解決ガ著イテ行クト考ヘマスノデ、私等ト致シマシテ此案デ十分サウ云フヤウナ心配ガナク、圓滿ニ事柄ガ運ンデ行クヤウニ思ハレルノデアリマス、結局辨濟期ガ參リマシテ、競賣ヲ請求スルカシナイカト云フコトハ、是ハ債権者ノ手ノ中ニ納メラレテ居ル權利デアリマスカラ、結局債権者サヘ承知スレバ圓滿ニ事ガ運ンデ行クダラウト思ヒマスノデ、其點ハ只今ノ事情ト餘リ變更ハナカラウト考ヘルノデアリマス

云フ見越シニ依ツテ、裏書人ノ態度ハ變ルノデアリマス、景氣ガ好クナツテ物ノ上ル時ニハ、心配アリマセヌケレドモ、少シ下ルヤウニナツテ參リマスト、ドウシテモ債權者ノ方ハ裏書人ノ保證ガアリマスカラ、又擔保ガアリマスカラ、延バシテモ宜シイガ、裏書人トシテハ、成ベク早ク賣ツテ貰ハナケレバ、自分ノ責任ガ重クナルト云フヤウナコトガ必ず出テ參リマスカラ、裏書人ト債務者ノ間ニハ、利害關係ガ常ニ一致シナイト考ヘマス、是非裏書人ヲ尊重シテ、

スレバコソ、此規定ガ出來タト思フノ  
デアリマス、例ヘバ債務者ノ方デハ、成  
ベク長ク借りテ置キタイ、裏書人ノ  
方ハ、今ノ政府委員ノ御答辯デハ、成  
ベク競賣サレナイ方ガ宜シイ、競賣サ  
レナイコトヲ希望スルコトガ常デアル  
カラ、共同シテ債權者ニ延期ヲ求メル  
ト云フ御意見デアラウト思ヒマスガ、  
私共ハサウ云フコトヲ考ヘテ居ルノデ  
ハナクシテ、裏書人ト債務者トノ間ニ  
利害相反スル場合ニ於テ――又サウ云  
フコトガ多カラウト存ジマスカラ、其  
場合ニ於テ裏書人ノ承諾ヲ得ナケレバ  
ナラナイト云フコトハ、非常ニ競賣ヲ  
繁カラシムルト云フコトヨリモ、一層  
煩瑣ニ陥リ、債務者ノ利益ヲ害サレル  
ヤウニ考ヘラレルノデアリマス、多ク  
ノ場合ニ、抵當物ガ下ルトカ上ルトカ

ソレカラ只今債務者ト裏書人トハ、  
一面利害ガ反スルヤウナ御説デアリマ  
シタガ、是ハ場合ニ依リマシテ、反ス  
ル場合モ、亦反シナイ場合モ、豫想出  
來ルノデアリマス、唯ソレハ場合ニ依  
リマシテ、色々ナ場合モ出來上ツテ來ル  
ト思ヒマスガ、大體ニ於キマシテ申セ  
バ、裏書人モ亦債權者ガ承諾スルナラ  
バ同意スルデアラウト思ヒマス、ソレ  
カラ債權者ト債務者トノ關係ニ於キマ  
シテ、若シ裏書人ガ同意致シマセヌト

債務者ニ不利益ナ法規ハ、成ベク調節シタ方ガ宜カラウト考ヘマスガ、尙ホ其點ヲ重ネテ御伺致シマス  
○森田政府委員 先程保證人ノ附イテ居ル場合ノコトヲ御答ヲ漏ラシマシタカラ、補ツテ置キマスガ、保證人ノ附イテ居リマス場合デモ、ヤハリ第三者カラ抵當物件ヲ貸シテ居ル場合ト變リナイト思ヒマス、ソレハ主タル債務者、債權者ト、保證人トノ關係ヲ保證シタノデアリマスカ、其間ノ關係——主タル債務者ト債權者ノ關係ヲ勝手ニ保證人ノ同意ナシニ更ヘラレルト云フコトニナルト、是ハ大問題デアリマシテ、其點ハ抵當物件ノ貸主ノ關係ト同ジヤウニ考ヘテモ宜カラウト思ヒマス、此點カラ見マシテモ、裏書人ノ同意ヲ必要トスルト云フコトハ、強チ不當ハナ

○森田政府委員 私共ノ解釋スル所ニ  
依レバ、債務者ト債権者ノ間ノ具體的  
關係ニ付テ保證シテ居ルノデアリマス  
カラ、ドウシテモ其基本ノ關係ヲ動カ  
スノニ付キマシテハ、保證人ノ同意ヲ  
必ズ要スルダラウト考ヘテ居リマス、  
何條ニサウ書イテアルカト云フコトニ  
ナルト、一寸何デアリマスガ、大體ノ  
法理ノ上カラ申シマスレバ、其解釋ガ  
正シカラウト思ヒマス、サウデナイト、

云フヤウナ時ニ、示談ノ方法ニ依ツテ  
ハ、裏書人ニ對スル責任ヲ執ルコトヲ  
止メテ、サウシテ債権者ト債務者ダケ  
デ示談モ延期モ出來ルノデアリマスカ  
ラ、大體ニ於テ能ク行クダラウト思ヒ  
マス、場合ニ依リマシテハ、ソレハ裏  
書人ノ同意ヲ得ルコトガ困難ナ場合  
モ、是ハ豫想出來ルコトハ御説ノ通り  
デアリマスガ、又反対ノ場合モ考ヘラ  
レマスシ、大體ニ於キマシテハ、前々  
カラ 私ガ申上ゲテ居ルヤウナ結果ニ  
ナツテ居リマス

増抵當ヲ入レルト云フ約款ハ、抵當證券ノ記載事項ノ中ニアリマセヌカラ、抵當證券ノ上ニハサウ云フ附帶約款ト云フモノハ記載サレナイ、隨テ後日ニ至ツテ増擔保ヲ入レナケレバナラヌ條件ノ到來シタ場合ニ於テ、ソレハ抵當證券ノ持主ガ代レバ、其契約ハ無效ニ歸シテ實效ヲ失フコトニナルノデアルカ、其點ヲ承リマス

○森田政府委員 増擔保ノ話デアリマスガ、増擔保ヲ入レルト云フ特約ガアツタ時ハ、ヤハリ特約事項トシテ登記ガ

主タル債務者ト債権者トノ間ニ、勝手  
ニ延期ナド致シテ置キマシテ、保證人  
ノ責任ヲ加重スルヤウナ結果ニナル場  
合モアルノデアリマスカラ、ソレハヤ  
ハリ保證人ガアリマス場合ハ、保證人  
ノ關係ニ於キマシテ同意ガ必要ダト思  
ヒマス、勿論債権者ト債務者トノ間デ  
約束シタコトガ無效デアルトハ申シマ  
セヌガ、保證人ノ判ヲ収ツテ置カナケレ  
バナラナイ、斯ウ申スノデアリマス  
○中田委員 違ツタコトヲ聞キマスガ、  
抵當權設定ノ爲ニハ、何時デモ擔保物  
價格低落ノ場合ニ於テハ、債権者ノ申  
出ニ依テ何時デモ増抵當ヲ差出スベシ  
ト云フコトヲ書クノガ例デアリマス、  
抵當證券ヲ發行スル場合ニ、後日ニ至  
テ増抵當ヲ入レナケレバナラヌ條件ガ  
起ツタ時ニ、登記シテアリマセヌカラ、

